

# ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

第59号 平成18年2月15日 発行

発行 者 社会福祉法人 神戸婦人同協会 子供の家  
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3  
tel 06 6491 2953 fax 06 6498 3444  
支援センター (tel. fax) 06-6491-1811  
E-mail (子供の家) info@kodomono-je.org  
(支援センター) pandy@kodomono-je.org  
URL <http://www.kodomono-je.org>

## 改修工事

子供の家の周りに足場が組まれ、大規模の改修工事が行われています。震災の影響もあってか、至る処に壁のひび割れなども見られ、外壁塗装工事、鉄部塗装工事、防水工事等が実施されます。尚、平成十八年三月十八日に改修工事が完了する予定です。工事期間中、騒音や工事車両の出入りなどもあり、近隣の方々には大変ご迷惑をお掛けしております。



## こどもの館号

平成十八年一月二十日(金)兵庫県立こどもの館の方々が、こども家庭支援センター・キャンディに「動く・こどもの館号」で来てくださり、子供の家のホールで地域

の親子の方々に絵本の読み聞かせをしていただきました。子供の家の幼児達も参加し、絵本や手遊びなどで楽しい一時を過ごしました。



## サッカー練習試合

一月二十二日(日)子供の家のサッカーチーム「ブルーフェニックス」が尼崎学園さんからのお誘いで、神戸市北区の尼崎学園内のグラウンドにて練習試合を行いました。善照学園さんも当日来られて、三施設で練習を行いました。練習とはいえ、二十八日にある県のサッカー大会を控えて、子どもたちは真剣な顔つきで練習に参加していました。ブルーフェニックスの結果は一勝も出来ずじまいでしたが、大会前に戦力分析を行う貴重な機会

となりました。尼崎学園、善照学園の皆さん、ありがとうございました。



## CGCサッカー大会

一月二十八日(土)兵庫県児童養護連絡協議会主催のチルドレン・グリーンカップ・サッカー大会(CGCサッカー大会)が兵庫県稲美町のサン・スポーツランドにみに行われ、子供の家のサッカークラブ「ブルーフェニックス」のメンバー十三名と職員五名が参加しました。やや雲の多い天候でしたが、サッカーするには良い天候となりました。第一試合はアメニティーホーム広畑学園との対戦で、四・〇で快勝しました。引き続いての第二試合では尼崎学園に〇・五で破れました。何とか決勝トーナメントに進出したのですが、昨年度優勝し

た二葉園 A と対戦することとなりました。二葉園 A とはほぼ毎年対戦しており、ブルーフェニックスにとつて大きな目標となっているのですが、前半必死の防戦で 0 - 0 で終了し、後半勝負となったのですが、惜しくも二点を取られ、0 - 2 で負けました。善戦しただけに、子ども達は試合終了後大変悔しがっていました。

しかし破れはしたものの、最後まで諦めず強豪チームに善戦したブルーフェニックスのメンバーに拍手を送ってあげたいです。本当によく頑張りました！

## 節分

平成十八年二月三日（金）子供の家でも豆まきをしました。夕食後、子供の家には三人（？）の鬼がやって来て、それぞれの居室を回っていました。

鬼たちは、持っていたバットや棒で大きな音を鳴らしながらまず幼児さん達の居室にやって来て、「言うこと聞かない子は誰だ！」など叫んでいました。普段は陽気な幼児さん達も、泣きながら逃げ回り、とも豆を投げるどころではなく、職員に抱っこしてもらったり、「言うことを聞くから」「片付けする」などと鬼と約束して何とか解放されました。その後、学童や中高生

の居室にも鬼はやって来て、子ども達は元気に豆を鬼に投げていましたが、中には学習机の下などに隠れていた子も何人かいました。鬼さんいわく、また来年もやって来るそうです。



今日の厨房職員は、巻き寿司を作るので大忙しでした。巻き寿司の材料は、今年も加藤産業（株）の皆様からの寄贈があり、本当に助かっています。「願い事をしながら、巻き寿司を恵方に向けて、黙

って丸がぶりすると、願い事がかなう」という事もあり、子ども達も南南東を向きながらいつもよりも静かにして食べていました。



## たこ揚げ大会

平成十八年二月五日（日）藻川の河川敷で凧揚げ大会があり、児童五名と職員一名が参加しました。河川敷まで歩いて行きながら以前、藻川で小学校のマラソン大会があった事を子ども達が思い出し、色んな話しをした事もあり、思ったよりも早く凧揚げ大会の会場に着きました。受付を済ますと一人一個の凧を役員の方から頂き、色とりどりのマジック・ペンでピカチューの絵、タコの絵、雷などの絵を書き、広い河川敷で人の真似をしながら凧を揚げました。とても高く揚がる子ども達や一度も空に揚がらない子ども達もいました。子ども達から「楽しかった。また、凧を揚げに行こう。」という声も沢山あり、とても良い体験ができたと思います。



## 韓国の尚志大学

平成十八年一月二十四日（火）韓国の尚志（サンチ）大学の大学院生の方々（二十八名）が、日本の社会福祉の現場実習として子供の家に来られました。一月十五日から二十五日の十泊十一日の予定で日本に滞在され、色んな福祉施設などを見学されました。



## 編集後記

一月と三月は、高校の入試、三月に退所を予定をしている子ども達の準備、そして四月からの入学、進級などで子ども達も職員も忙しくなってきました。子ども達の人生にとって大切な節目の時です。次回は、子ども達の良い報告が出来るかと思っています。（T・N）